

ONOMICHI U2

尾道水道が目の前という絶好の立地に建つ Onomichi U2 はありとあらゆるビジターのための多目的施設ですが、とりわけサイクリストにうってつけです。1943 年に建てられた海運倉庫だった Onomichi U2 には、現在ではレストラン、バー、カフェ、パン屋、ギフトショップ、サイクルショップがありますが、最も有名なのはそのユニークなホテルです。

Onomichi U2 は 3 区画に分かれており、ほぼ 3 分の 1 を Hotel Cycle が占めています。名前からも想像がつく通り、このホテルはサイクリストを念頭に置いて設計されており、28 室全てにサイクルラックが備え付けられています。自転車を持参していない宿泊客は Hotel Cycle から、あるいは Onomichi U2 の中にあるサイクルショップ、「ジャイアント」から借りることができます。Hotel Cycle はソフトな照明によって Onomichi U2 の他の区画から視覚的に区切られており、ホテルのパブリックスペースのほの暗いインテリアと、それと同様のくつろげる雰囲気が、ダークウッドの机とどっしりした石造りの洗面台を備えた客室まで続いています。ホテルのルームウェアは地元で織られたシャンブレー生地、スツールカバーは地元の伝統的な生地、備後緋が使われています。

Onomichi U2 の、倉庫から注目のホスピタリティ施設への転換は、サポーズデザインオフィスによって 2014 年に完了し、サポーズは元の歴史的建造物を保存することに成功しました。サポーズは既存の構造を変えることなく耐震性を強化し、倉庫の中に建物を創るために軽量鉄骨を使用しました。これによって Onomichi U2 はメインスペースの内側に小さな建物をいくつも入れるという入れ子設計になっており、どれも元の壁や天井にぎりぎり接触していません。建築物の中の建築物というこの構造は Hotel Cycle において最もわかりやすく、ホテルを訪れる人はロビーから見ることができます。

Onomichi U2 のレイアウトは「町の中の、小さな町」という設計した建築家のコンセプトに起因しており、両側に店舗やカフェのある長い中央通路が建物の東西を貫き、Hotel Cycle まで延びています。オープンな設計によって、訪れる人とスタッフの間に自然なやり取りが生まれ、主に使われた木、石、鉄の素材が、尾道の伝統的な木造家屋や盛んな造船業を思い起こさせます。